

スキルトレーニングの手引き

～隊指導者のプログラム推進力の向上を目指して～



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

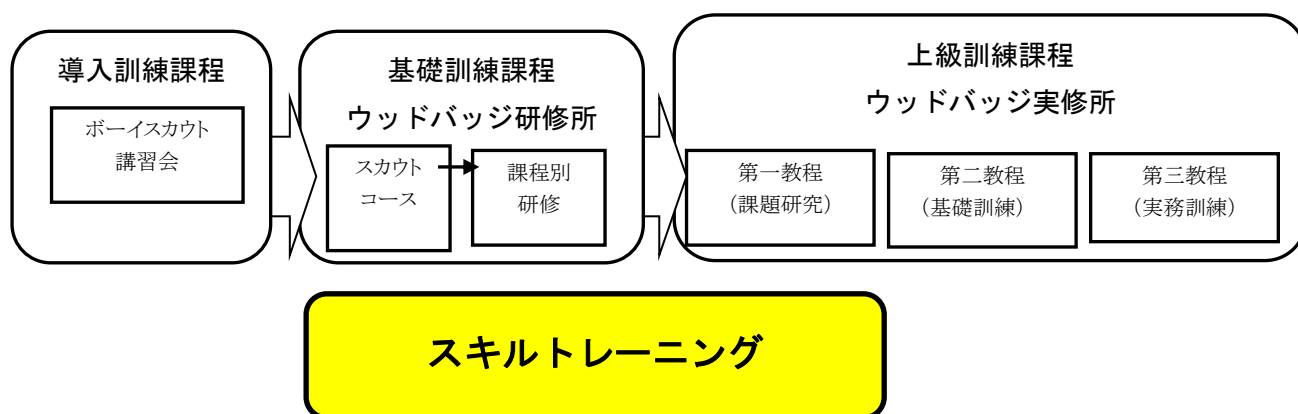
Adults in Scouting

目 次

本書について	1
スキルトレーニングについて	2
スキルトレーニングの認定と考査について	2
スキルトレーニングの取り組みについて	3
スキルトレーニングを学ぶための日本連盟発行書籍	6

本書について

現行の指導者訓練体系では、成人指導者の養成は任務中の支援（インサービス・サポート）を中心に行い、定型訓練もその支援の中の一つとして、指導者として共通の要素を学ぶ場として位置づけています。そして、指導者訓練の体系（組み立て）は、導入訓練課程（ボーイスカウト講習会）、スキルトレーニング、基礎訓練課程（ウッドバッジ研修所：スカウトコース・課程別研修）、上級訓練課程（ウッドバッジ実修所：第一教程（課題研究）・第二教程（基本訓練）・第三教程（実務訓練））の段階的な訓練で構成されています。



また、「課題研修」の課題の一つとして、スキルトレーニングの一部の項目に取り組むことも設定されています。

集合訓練であるウッドバッジ研修所（スカウトコース・課程別研修）、ウッドバッジ実修所第二教程（基本訓練）での研修、生活を効果的かつ有意義にする為に、スキルトレーニングは必要不可欠なものです。

また、スカウトたちに提供するプログラムに関しても、成人指導者がスカウトスキルを身につけることにより、魅力あるプログラムにすることができます。

このたび、訓練に取り組む成人指導者がスキルトレーニングを履修する為の一助になるよう「スキルトレーニングの手引き」を作成しましたので、取り組む本人だけでなく、団の支援者、コミッショナーやトレーナーの方々にもご活用いただきたいと思っております。

スキルトレーニング について

スキルトレーニングは、「野外活動を中心とした活動を通じて青少年を育成、指導できる指導者」および「スカウトや保護者に支持されるプログラムを提供できる指導者」の養成を目指し設定しました。

スキルトレーニングの項目・細目は隊指導者がスカウトを指導する必要最低限のスカウト技能として設定し、各部門においてプログラムを展開するにあたり、魅力的かつ安全な活動が展開できる事をねらいとしました。

指導者訓練では、すべての指導者が上級訓練課程を修了することを目指しており、上級訓練課程が修了した指導者が知識・技能・心構えを十分に備えるために、上級訓練課程の各課程参加前までにすべてのスキルトレーニングの履修認定を受けなければなりません。

スキルトレーニングは集合訓練における、技能指導、参加による修了認定ではなく、すでに身につけている技能および自己研修によって身につけた技能をトレーナーの認定等によって履修を認めます。

スキルトレーニングの項目・細目はボーイスカウト部門の2級章と1級章のスカウト技能レベルに設定されています。

スキルトレーニングは基礎訓練課程の課題研修および基本研修(テント泊の場合)により項目および細目の一部または全部の履修を認定することができます。

スキルトレーニングは、公的資格、他団体等の研修、職業等これらを証明することにより履修を認定することができます。

スキルトレーニングの 認定と考査について

1. 認定基準

スキルトレーニング履修項目一覧に示された各項目の細目について、実演、提示等で項目の認定とします。

スキルトレーニングの細目が完全に身につけていなくてももちろん認定となりますが、不得意なものであったり、技術的に不十分であっても、その内容を理解し、プログラムに取り入れることができ、企画ができるようにして、今後技能の修得に励んでください。

実際にプログラムを実施する場合には、先輩指導者やインストラクターなどを活用し、自分自身もスカウトと一緒にスキルを身につけていく姿勢が大切です。

定型訓練内での修得および定型外訓練での修得の場合は、認定者が認定細目が十分に取り入れられているかを判断し、参加者がその細目について実習やキャンプ生活

を通じて、身につけていることを確認することにより個人ごとに認定します。

その他の認定に関しては、証明書、経歴書、免許、報告書等の提示により認定します。

2. 認定者

スキルトレーニングの知識、技能を十分に持っている身近なトレーナーもしくは日本連盟が認めた認定者(スキルアップアドバイザー※)とします。

※スキルアップアドバイザーは県連盟からの推薦に基づき、日本連盟が委嘱しています。(任期2年)

3. 認定方法

履修認定者から全ての細目が認定されたら、項目が認定となります。全ての項目が認定となった場合、スキルトレーニングの修了となります。

修了認定は県連盟コミッショナーが行います。

細目や項目の認定およびスキルトレーニングの履修に関しては、指導者手帳を使用してください。手帳には、項目、細目が記され、認定や履修の日付、認定者の記入欄が設けられています。

すでに指導者手帳を使用している方は以下よりPDFをダウンロードして使用してください。

http://www.scout.or.jp/_userdata/training/new/skilltraining.pdf

4. 考査方法

履修認定者は、スキルトレーニングに取り組む隊指導者に対して一番有効な方法で行うことが大切であり、認定者側の都合や、集合訓練のみでの考査にならないよう十分留意してください。

スキルトレーニングの 取り組みについて

スキルトレーニングに取り組む成人指導者は、まず、スキルトレーニングの項目と細目を、指導者手帳、ホームページ、スカウトスキル・セレクション、スカウティング誌(2012.11月号 No.692 P25)等によく確認し、自分の出来る技能と出来ない技能をよく確認してください。

各細目の詳しい内容については後述の書籍に記述されていますので、まずはよく読んで確認をしてください。ほとんどの細目はボーイスカウト「スカウトハンドブック」に記載されていますので、「スカウトハンドブック」を入手し、確認をしてみましょう。

すでに隊指導者としての経験のある方、特にボーイスカウト部門の経験のある方は、ほとんどの細目をスカウトに指導した経験があると思います。他部門の指導者の方もいくつかの細目は出来るものがあると思いますので自分の出来る細目を把握しておきましょう。

よくわからない細目や自信のない細目については、まずは団内の指導者に相談してみましょう。特にボーイスカウト隊の指導者は、スカウトたちに対してほとんどの細目を指導しているはずです。

ボーイ隊の隊長が不得意な細目も団委員や他の指導者たちが手助けをしてスカウトたちを指導しているはずです。

スキルトレーニングはボーイスカウトの2級章と1級章のスカウト技能のレベルですので、あなた自身の少しのやる気と努力、そして団内での手助けで出来ようになります。

ぜひ、身近な団の仲間の支援を受けてスキルトレーニングの技能を身につけてください。

地区や県連盟では、スカウトスキルやキャンプ技能について、定型外訓練を実施しているところもあります。このような機会を通じてスキルトレーニングを認定していただくこともできます。

スキルトレーニングは、集合訓練に参加しなければ認定されないものではありませんので、自分の研修計画の中で定型外訓練を上手に活用しましょう。

スキルトレーニングの細目や項目について認定を受けようと思ったら、まずは身近なトレーナーや認定者を見つけましょう。

トレーナーや認定者が身近にいない場合は、地区や県連盟のコミッショナーに相談し、紹介をしてもらってください。

自分のスカウトスキルをどのように認定者に認めてもらうかは、担当のトレーナーまたは認定者と十分に相談をして決定し、認定を受けてください。

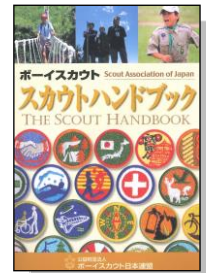
スキルトレーニング履修項目一覧

項目		細目			
1	ロープワーク	1. 次のロープ結びについて実演できる。			
		本結び	ひとえ継ぎ	ふた結び	もやい結び
		8の字結び	てぐす結び	巻き結び	ねじ結び
		ちぢめ結び	引きとけ結び	馬つなぎ	トートラインヒッチ
		垣根結び	角縛り	筋かい縛り	アイスプライス
		ボックスプライス	からみ止め		
2	地図とコンパス	(1) 16 方位と方位角の呼び方をおぼえ、プレートコンパスを使用することができる。			
		(2) 地形図に座標軸および磁北線を記入し座標読みができる。			
		(3) 地形図上に示された 2 個の目標物と現在地点との方位角、標高差、および道路に沿った歩行距離を読むことができる。			
		(4) 地形図上に示された 10 種 10 個以上の地形図記号を判別することができる			
		(5) 1線式または2線式路線記録法により野帳を記入し、略地図を作成できる。			
3	野営技能(野営工作、野外炊事含む)	(1) 家型テントの設営、撤営と維持管理ができる。			
		(2) フライテント(タープテント)の設営、撤営と維持管理ができる。			
		(3) 班サイトの設計と維持管理ができる。			
		(4) BS 隊を想定した 3 泊以上のキャンプを経験する。			
		(5) 班の炊事に適する 2 種以上のかまどを使い、薪で炊事ができる。			
		(6) 薪以外の燃料を 2 種以上使用して炊事ができる。			
		(7) 食料の貯蔵と保管方法について説明できる。			
		(8) 班キャンプに必要な野営工作物を 2 種以上作成し、活用することができる。			
		(9) キャンピング中の危険防止と衛生を保つ方法を説明できる。			
4	通信(手旗、信号、サイン等)	(1) ハイキングにおいて自然物を利用した追跡記号を通信文を含めて配置できる。			
		(2) カタカナ手旗信号で20字程度の通信文を意味を間違えずに発信・受信できる。			
5	刃物の取り扱い	(1) 刃物の携帯に関する法律について説明できる。			
		(2) ナイフの正しい使い方と安全について説明できる。			
		(3) ナイフの研ぎ方が実演できる。			
		(4) なた、オノの正しい使い方と安全について説明できる。			
		(5) なた、オノの研ぎ方が実演できる。			
6	計測と簡易測量	(1) 100 メートルの距離を誤差5%以内で歩測できる。			
		(2) 簡易測量法を用いて、到達できない 2 点間の距離を測る。			
		(3) 簡易測量器具を用いて樹木などの高さを測る。			
7	救急法	以下の職業に従事する者、及び各種講習会修了認定者は 7 救急法について履修認定する。 ・医師 ・看護師 ・日赤救急法救急員養成講習修了者 ・消防局消防本部による上級救命講習認定者 ※ただし、(6)については、上記有資格者であっても、履修認定が必要となる。			
		(1) 他の人に次の応急手当ができる			
		うちみ	手首足首のねんざ	目のちり	足のまめ
		虫さされ	切り傷	やけど	ひどい日焼け
		鼻血	毒蛇にかまれた傷	犬にかまれた傷	熱中症
		(2) 直接圧迫止血法ができる			
		(3) ショック、食中毒、ガス中毒のそれぞれの症状を知り、応急処置ができる。			
		(4) 心肺蘇生法が正しくできる			
		(5) AED の取り扱いが正しくできる。			
		(6) 他の1名と協力して急造担架が作れる。			

スキルトレーニングを学ぶための
日本連盟発行書籍

1. ロープワーク

「ロープむすび」
「スカウトハンドブック」 p229～240



2. 地図とコンパス

「地図とコンパス」
「スカウトハンドブック」 p86, p92～111
「スカウティング」誌 (2012. 11月号 No. 692 P2～5)



3. 野営技能

技能章ガイドブック「野営章」「野営管理章」「炊事章」

「スカウトハンドブック」
p242, p243, p266-273, p194-205, p276-279, p214-217

「指導者のためのスカウト・キャンプ」



4. 通信

「スカウトハンドブック」 p142-147



5. 刃物の取り扱い

技能章ガイドブック「野営管理章」
「スカウトハンドブック」 p188-193



7. 計測と簡易測量

ボーイスカウトハンドブック⑤「計測」
「スカウトハンドブック」 p130-135



8. 救急法

「救急法」
「スカウトハンドブック」 p290-315



9. スカウトスキル・セレクション
< SCOUTING 別冊 >

スキルトレーニングの手引き

平成31年3月発行

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

指導者養成委員会 編

発行



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟
